

このように、世界で文字をつくったのは四つの民族しかいません。

では、後はどうしたかという、この文字をいわゆる表音文字として借りました。たとえば日本語をアルファベットで表すと、20字もありません。十いくつかで日本語を全部表記することができます。

アルファベットは二六文字ですが、この中で重なったものがいくつかあります。ABCのCというのは、Sか、あるいはKの発音と同じです。XはKの音とSの音を二つ合わせたものです。

このようにアルファベットを発音記号としてみると、不要なものがいくつもあります。

現在使われているアルファベットはローマ字ともいわれますが、これはローマ帝国がヨーロッパを統一したとき、支配するために制定した文字です。その文字がローマ字です。ローマ帝国の公用語はラテン語ですから、ラテン文字とも呼ばれますが、国の名前を使ってローマ字、言語の名前をとってラテン文字ともいいます。

呼び名は進っても中身は同じです。しかしこのローマ字は、すべてローマ帝国で発明されたのかというとそうではなく、先進国ギリシャの文字をちょっと手直したものです。

ギリシャの文字は二四文字でした。そこでローマ帝国では、どうしても必要な文字をつくり、いらぬ文字のいくつかを削りました。そして差し引くと、二字増えて二六字になったのです。

それでは、ギリシャ文字はギリシャ人によって発明されたものかという、そうではありません。これはフェニキア文字を改造したものです。フェニキアというのは、現在のイスラエルとかレバノンです。この地域に住んでいた民族をフェニキア人といいました。

実際はユダヤ人になるわけですが、この人たちが地中海を中心にして大活躍をします。その時に使った文字をフェニキア文字といいます。このフェニキア文字にギリシャ人がちょっと手を入れて、これが元になってつくられたのがギリシャ文字です。

では、フェニキア人がそれを自分で発明したかという、これもまたそうではなく、源流はアッカドという民族だとされています。